# 未来の学術振興に向けた重要な学術研究の取りまとめについて

資料1

【日本学術会議を取り巻く状況の変化】

○「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」（第182回総会決定）を踏まえた科学的助言機能の強化
　→　中長期的視点、俯瞰的視野、分野横断的な検討を重視

○　気候変動、カーボンニュートラル等のサステナビリティや新型コロナウイルス感染症対応等の取組への社会的関心の高まり
　→　社会と学術・科学技術、行政と学術との関わりの変化

○　「マスタープラン」に対する内外の意見
　→　個別分野に閉じた計画が多く分野横断や学際的な取組が不十分ではないか。当面の予算確保を意識するあまり中長期的視点に欠けるものもあるのではないか。提案・選定された計画の数に分野間で大きな偏りがある　等

第21期以降、学術的意義の高い大型研究計画を広く網羅的に体系化し、我が国の大型研究計画のあり方に一定の指針を与えてきた**「マスタープラン」を今期は策定しない。代わって以下の新たな取組を立ち上げる**。

**【新たな取組に係る問題意識】**

○　我が国の研究力について国際的な競争力の低下が懸念される中、中長期的な学術振興の観点から各分野で構想されている重要な学術研究計画を網羅し、それらに対する学術的な意義や社会的価値、計画の妥当性等について我が国の科学者コミュニティとしての考え方を取りまとめて明らかにすることは学術会議が引き続き果たすべき重要な役割。

○　社会が複雑化し、学際的・分野融合的な研究の重要性が一層増す中、重要な学術研究計画を網羅するだけでなく、骨太な未来の学術振興のビジョンを提示し、複数の研究コミュニティーが連携した複合的な研究計画や、人文・社会科学分野が中核的に関わる中長期的な重要な研究計画等をも積極的に掘り起こし、取り上げていくことが必要。

○　策定の過程を通じ、各学術分野において中長期的な研究の方向性や道筋が活発に議論され、他のコミュニティとの情報・意見交換等による科学者コミュニティ全体の活性化、新たな知的基盤の形成促進等も期待。

科学者委員会「**学術研究振興分科会**」に対し、意思の表出に係る新たな仕組みの下、改めてとりまとめの意義、未来の学術振興のビジョン、対象とすべき研究計画の要件等を整理・検討し、**今期中に未来の学術振興に向けた重要な学術研究の骨太な取りまとめ**を行うことを要請